◆岐阜県博物館

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、岐阜県関市にある岐阜県博物館で開催された、マイミュージアムギャラリー展示「熱虫！夢虫‼ 本・グッズ 漫画コレクション‼」です。

マイミュージアムギャラリー展示「熱虫！夢虫‼ 本・グッズ 漫画コレクション‼」
URL：https://www.gifu-kenpaku.jp/mymg/mmg8-4/

岐阜県博物館では、県民や県にゆかりのある方が自ら企画・主催する生涯学習の成果発表の場として、マイミュージアムギャラリー展示が継続的に開催されています。昭和元年（1926 年）から数えて満 100 年を迎える本年は、「昭和 100 年」関連施策の一つとして、令和 8 年（2026 年）9 月 5 日（土）から 10 月 4 日（日）までの間、手塚治虫作品の熱虫コレクターである林真司氏による「熱虫！夢虫‼ 本・グッズ 漫画コレクション‼」が開催されました。

「鉄腕アトム」をはじめ、「ジャングル大帝」、「リボンの騎士」、「火の鳥」、「ブラック・ジャック」など、数々の不朽の名作を生涯描き続け、「漫画の神様」と称される手塚治虫氏は、昭和から平成の幕開けにかけて日本の漫画・アニメ文化の礎を築いた巨匠です。今回の展示は、林さんの高度経済成長期における子どもの生活文化や熱気を感じることができる企画となっています。





取材当日は、幸運にもコレクターである林さんご本人が会場にいらっしゃったことから、展示品一つひとつに込められた物語や収集時のエピソードなどを直接解説していただきながら鑑賞することができました。

展示会場へ足を踏み入れた瞬間、その圧倒的な物量とカラフルな色彩に目を奪われました。会場内には、漫画や貴重な付録本をはじめ、文房具、ブリキのおもちゃ、カバン、水筒、衣

◆岐阜県博物館

類、ゲーム、シール、お菓子のパッケージ、食器、浮き輪など、約 2,000 点もの手塚作品の関連グッズがところ狭しと並べられていました。ふと視線を上げると、天井にも色とりどりのハンカチが数多く吊り下げられており、空間全体が昭和の活気をそのまま閉じ込めたかのような熱気で満たされており、これほど膨大な展示物でありながら、林さんが所有するコレクションの半分にも満たないということで、ただただ驚かされるばかりでした。さらに驚くべきことに、この莫大なコレクションは特別な資金をつぎ込んだものではなく、40 年以上にわたり毎月のお小遣いの範囲内でコツコツと収集を積み重ねてこられた結果だそうです。「継続は力なり」という言葉の重みと、尽きることのない探求心に深い感銘を受けました。

林さんは、人気番組「開運！なんでも鑑定団」に出演されるなど、手塚作品のコレクターとして有名な方です。押し入れの奥から偶然、よれよれになった『鉄腕アトム 第 2 巻・火星探検の巻』が見つかったことをきっかけに、収集意欲に火が付き、社会人となってから古本屋などを巡って少しずつ手塚作品を買い集めるようになったとのことで、アンテナを常に張り巡らせて、旅行などで各地を訪れる際にも、時間を見つけてはグッズが眠っていないか丹念に探されてきたといいます。そんな林さんですが、近年は、世界的な日本の漫画人気もあり、外国人バイヤーが作品やグッズを買い集めるケースが増えていることや、市場価格の高騰も相まって収集が年々難しくなっているという実情も伺いました。

数ある展示のなかで特に印象的だったのは、経年劣化しやすいビニール製の浮き輪がしっかりと空気が入れられた状態で展示されていたり、当時のキャラメル箱などの紙製パッケージが、中身が溶け出すことなく綺麗な状態で保存・展示されていた点です。保存のご苦労などについてお伺いしたところ、特別な保存方法は行っていないとのことでしたが、お話からは、納戸に保管して直射日光から守るとともに、グッズの劣化を防ぐために気泡緩衝材で巻いたり、空気に触れて傷まないよう密閉保存するなど、基本に忠実に配慮を凝らしてきていることが伝わってきました。また、「保存よりも何よりも一番苦労したのは、家族の理解を得ることです（笑）」と笑顔で語られる姿に、コレクターならではの温かい人間味と愛情を感じました。

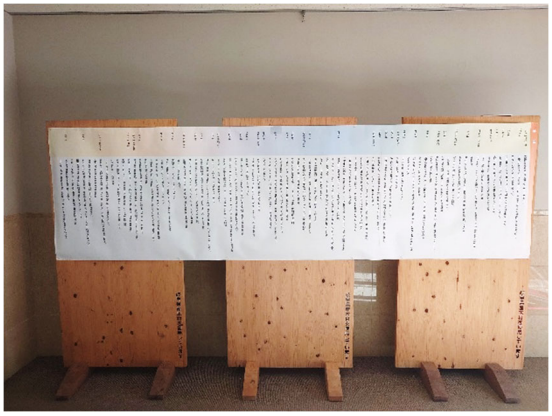
この他にも、展示室の外には林さんが自ら作成されたという巨大な「手塚治虫年表」が掲示されており、一人の作家に対する尽きない敬意と探求心も非常に印象に残りました。





◆岐阜県博物館



視察当日は、「これ自分も持っていた！」「本当に懐かしい、当時の思い出が蘇る」と目を輝かせながら当時を懐かしむご年配の方や、中には林さんに当時の思い出を熱っぽく語りかける来館者の方もいらっしゃいました。職員の方にお話を伺ったところ、ご年配の世代を中心に、ご家族連れや学生など幅広い世代の方が訪れているほか、地域的にも東海圏にとどまらず、関東や関西など遠方からの来館者もいらっしゃるとのことです。

また、今回の展示設営にあたっては、大学生の博物館実習の一環としてパネル展示の作業をサポートしてもらった経緯があり、林さんから直にコレクションの解説を受けた学生たちが大変感銘を受け、新しい発見に喜んでいたそうです。昭和という時代を知らない若い世代へも、コレクションの魅力が着実に浸透している様子が伝わってきました。

最後に、林さんに収集に対する想いと、「昭和 100 年」にあたっての想いをお伺いしました。「終活とは『終わりなき活動』、断捨離とは『断じて捨てない、離さない』ことだと思っています。子どもの頃の昭和はちょうど高度経済成長期で、社会全体に勢いと活気がありました。誰もが食い入るように漫画やテレビアニメに夢中になった、本当に素晴らしい時代でした。あの頃の熱気や文化の息吹を、風化させることなく次の世代へ残していきたいのです。手塚作品関連のコレクションを通じて、その歴史的・芸術的な素晴らしさを多くの方へ繋いでいくとともに、手塚先生が作品の根底に生涯込めて伝え続けた『命の大切さ』というメッセージを、これからの時代を担う世代へしっかりと語り継いでいきたいと考えています」と、優し目でけれども力強く語ってくださいました。

◆岐阜県博物館

今回の視察を通じて、激動と発展を遂げた昭和のダイナミズムを肌で実感するとともに、手塚作品の普遍的な魅力、そして林さんの尽きることのない「手塚愛」と探求心に心を揺さぶられました。昭和の躍動感と、コレクターの情熱が重なり合って見えた瞬間でした。

「いくつになっても、好きなものに出会ったときのときめきや、わくわくする気持ちは変わりません」と笑顔で語る林さん。この果てしない情熱と昭和の記憶が、次の世代へと豊かに継承されていくことを願ってやみません。



なお、岐阜県博物館では、本館 4 階にある休憩スペースに、昭和時代の一般的な暮らしを再現した常設展示コーナー「昭和の居間」を設置しており、ブラウン管の白黒テレビや黒電話、ちゃぶ台など、昭和中期の生活感あふれる家具や日用品が再現度高く展示されています。季節の移り変わりに合わせて夏仕様や冬仕様へと生活道具の展示替えも行っているとのことで、マイミュージアムギャラリー展示「熱虫！夢虫‼ 本・グッズ 漫画コレクション‼」の終了後も、ぜひ昭和の空気を感じに、多くの方に岐阜県博物館へ足を運んでいただけたら幸いです。





会期：令和 8 年 9 月 5 日（土）から 10 月 4 日（日）
主催：岐阜県博物館
住所：岐阜県関市小屋名 1989（岐阜県百年公園内）